NO.43. 古典伝統芸能「狂言」体験授業

令和５年１２月１４日（木）

長くて暑くて、沢山の行事があった２学期も子ども達が登校しますのは、あと６日間。
そんな折、「狂言の体験授業が東ときわ台小学校で行われるので見に来られませんか。」
というご案内をいただき、１２月１４日（木）の午後、取材を兼ねて行ってきました。

能舞台＝ここで能や狂言が上演される
神様の前だから、普段と違う丁寧な所作（動き）をするんだよ

張校長先生にご案内いただき、３階の音楽室へ。そこには今日の体験授業をご指導いただく大蔵流狂言方、安東　元さま（ときわ台在住）が狂言の装束で待ってくださっていました。

お面を付けると何が見える？
→そう、前しか見えないんだ

オニは色々な場面で出てくるよ
左手をあげて、右手をあげて、大きく足を開いて！」
「ハァ―、ハッ、ハッ、ハッ、ハッ、ハッ
（嬉しい時）」

扇は、命を守ってくれる大事なものだから
腰に差すんだ
人差し指と親指で持って、あとは軽く添えるよ

柿山伏の一場面を演じています
駆け出しの山伏が、柿を盗んで食べて
いるのを持ち主に見つかり、なぶられ
（からかって）こらしめられるというお話

６年生を対象に、５，６時間目を使った「狂言」の体験授業。「今から６００年前、室町時代の笑いを狂言（大阪弁）で表すんだよ。」というお話も分かり易く面白くて、皆で「雪山」を謡ったり、「柿山伏」を演じてみたり、あっという間の２時間でした。

安東さま、大変お忙しい中、子ども達のために時間を取ってご指導いただきました事、心よりお礼申し上げます。
これからもどうかよろしくお願いいたします。
＊文化庁の「文化芸術による子ども育成事業」で東能勢小学校でもお世話になりました。